未来を夢見て

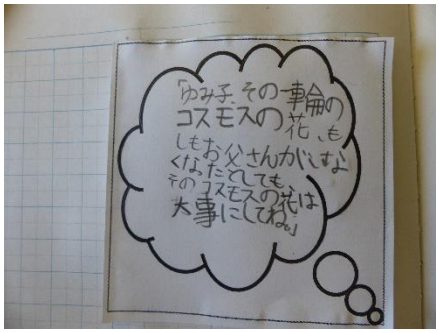
2020/10/29 No. 43

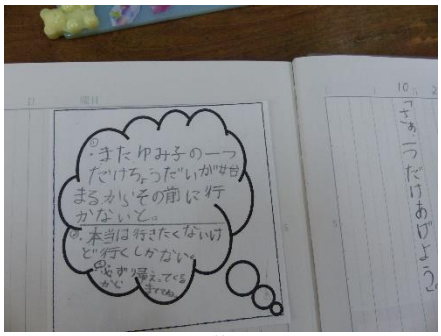
中学年部授業研究会「一つの花」に参加して

連日の好天に恵まれ、２８日（水）には６年生が授業見学会で「よさこいソーラン」を見せてくれました。本来であれば運動会で、全校児童と保護者の皆様の前で披露する予定だった演舞です。この日は２組と４組の皆さんが、息の合った掛け声と堂々とした動き、小気味よいよさこいのメロディとなるこのリズムに乗って迫力のある「よさこいソーラン」を披露してくれました。

ちなみに　ソーラン節は学習指導要領５，６年生の体育「F 表現運動」の中でも、日本の民踊として紹介されています。御承知の通り「表現運動系」は全学年で指導する領域です。６年生だけでなく、音楽での表現の機会が少なくなってきているので、校庭で全身を動かして表現すること、そしてそれを見てもらうことは、どの学年でも今後とても可能性のあることのように感じました。

また、校舎内の階段に掲示してあった４年生の子供たちの絵画も目を引きました。構図や色の重なりが見事で、ここにも普段の授業の成果が感じられました。表現は体育科や音楽科だけでなく、図画工作科でも中心となる領域です。個人的には合唱での表現のよさをより大事にしたいのが本音ですが、今の状況ではそれも叶いません。ただ見方を変えると、これまではどうしてもイベント的な行事のためにやや音楽に特化していた「表現」を、体育や図工などの教科の枠の中に戻して考えることができるチャンスになる可能性もあるようです。





さて、２９日（木）中学年部の授業研究会に参加させていただきました。授業者は佐藤裕子先生。単元は「一つの花」です。子供たちが何でも言える支持的な風土の中で、裕子先生と一緒に一生懸命に考えている子供たちの姿が印象的でした。写真は中学年部の手立てである「吹き出し」にゆみ子のお父さんの気持ちを書いたものです。その中で「また、ゆみ子の一つだけちょうだいが始まる前に行かないと、本当は行きたくないけど行くしかない、**必ず帰ってくるから待っていてね。**」　と吹き出し一杯に書いていたお子さんのノートが目にとまりました。

（必ず帰ってくる）、私には考え及ばない子供らしいその記述の内容にうれしくなりました。

優れた作品と支持的な学級の風土、そして、子供たちの発言やつぶやきを丁寧に受け止める裕子先生の指導力で、本校の研究で目指す児童像「登場人物の気持ちの変化や性格、情景を叙述に基づいて捉え、自分の感想や考えをもつことができる児童」に４年３組のお子さんが迫っていることを感じた瞬間でした。授業者の裕子先生はじめ、今日の授業を協働で作り上げいただいた４年生の先生方に心から敬意を表します。皆さんお疲れ様でした。　　（文責：手代木）